

平成23年度 地域とともにある 学校づくり推進協議会

【東京都小平市実践発表】

小平地域教育サポート・ネット事業
(学校支援地域本部事業)

小平市教育委員会
教育部生涯学習推進課

●小平市(昭和37年市制施行)



- 位置 都心から西へ、26 Km
- 面積 20.46km²

- 人口 179,728人 (平成23年1月1日現在)

* 都心部へのベッドタウンとして戦後急速に人口が増加、市内には6つの大学、6つの高等学校があり学園都市としても発展しました。

◎小平市立学校 小学校19校 児童数 9,121人
中学校 8校 生徒数 4,168人

(平成23年5月1日現在)

●教育委員会の教育目標と基本的な考え方

小平市教育委員会では、目指すべき「教育目標」と、その実現に向けた「基本的な考え方」を定め、毎年改定を行っています。

その中で、特に地域教育に関係する部分についてご紹介します。

「教育目標」では、

「教育は時代の変化と社会の要請に主体的に対応し、21世紀を担う人間を育成することが求められている」として、そのために、「多様なニーズに応じた学習環境や教育条件の整備に努め、一人一人の子供たちに一層きめ細かい支援を実現していくために、学校の教育力を高めるとともに、家庭や地域と一体となって小平市の教育を創造していく」としています。



「基本的な考え方」では大きく4つの考え方に分けて、特に3・4で地域教育に関する考え方が定められています。

【基本的な考え方3 「生涯学習・スポーツ」の振興】

少子高齢社会の中で、総合的な教育力の向上や世代を超えたコミュニティづくりを目指し、活力ある社会を築いていくよう、子供たちの健やかな成長を社会全体で支えるとともに、市民一人一人が生涯にわたって学び、社会に貢献できるようにすることが求められている。そのために、家庭、学校及び地域社会の教育力を高め、その連携が進むよう支援するとともに、人々が生涯を通じて、自ら学び、文化やスポーツに親しみ、社会参加できる機会の充実を図る。



【基本的な考え方4「市民の教育参加」と「学校経営の改革」の推進】

家庭、学校及び地域社会の協働と市民の教育参加を進め、市民感覚と経営感覚をより重視して、教育行政を力強く展開することが求められている。

そのために、広域的な視点に立つ教育行政を進めるとともに、東京都及び区市町村教育委員会との緊密な連携・協力の下に、効率的で透明性の高い開かれた、市民に信頼される魅力ある学校づくりを目指した自律的な学校経営への改革を進めていく。



●21 ☆こだいらの教育改革アクションプラン (平成13年制定)

小平市教育委員会では平成13年4月、「地域で育てよう すこやかな子ども」を基本理念とする「21 ☆こだいらの教育改革アクションプラン」を策定しました。

このプランは、子どもたちの「生きる力」をはぐくむために、学校教育の側面からの「開かれた特色ある教育活動の推進」、社会教育の側面からの「世代を超えたコミュニティづくりの推進」の両面からのアプローチを試みたものです。

以来、このプランの基本理念を継承し、学校教育・社会教育といった枠組みを超えて、家庭・学校・地域社会の連携とそれぞれの教育力の向上のための取組を進めています。



●小平地域教育サポート・ネット事業 (学校支援地域本部事業)

平成14年度に東京都の「地域教育サポート・ネット事業（3年間の補助事業）」モデル地区の指定を受け、「未来を担う子どもたちを地域で育てる」ことを目指して、この事業を開始しました。モデル校として小平第二中学校地区の4校（小学校3校、中学校1校）を対象に、学校支援ボランティアの養成・積極的活用及びコーディネーターの養成事業に取り組みました。

平成17年度からは、それまでの成果を踏まえ、市の単独事業「小平地域教育サポート・ネット事業」として、二中地区の充実と他の学校への拡大を目指して継続実施してきました。

この事業では特に、学校と地域のパイプ役を果たすコーディネーターの存在が大きくなっています。



●学校支援コーディネーター

学校支援コーディネーターは、学校とボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整等を行い、この事業の実質的な運営、中核的役割を担うもので事業の成果を左右する重要な存在です。これまで学校が行うことが多かった連絡調整業務を地域が担うことで、学校の負担軽減にもつながっています。

平成18年度から、「**コーディネーター世話人**」を**学校長の推薦により教育委員会が委嘱**することとなりました。平成20年7月からは国の委託事業「**学校支援地域本部事業**」を受託し、平成23年4月現在、26校で48人のコーディネーター世話人の方が活動しています。

平成23年2月現在

合計	学校教職員	PTA（現役）	PTA（OB）	その他
95	5	6	52	31

上記のコーディネーターの中から、各学校2名以内の「コーディネーター世話人」を学校長が推薦して、教育委員会の委嘱を受けています。



●ボランティア養成講座

学校支援ボランティアの養成講座は、学校が必要とする**ボランティアを養成**することや、すでに活動している**ボランティアのスキルアップ**を図ることを目的に、各学校がコーディネーターと調整しながら講座内容や講師を決めて、**学校施設を会場に開催している**ところが小平市の大きな特徴です。

したがって、講座を受講した方々は、講座で基本的なものを学ぶことによって**学校支援ボランティア活動にすぐ参加できるという仕組み**になっています。

また、この講座は、学校が必要とする人材を、広く集めるためのきっかけづくりになるとともに、これまで学校と接点のなかった地域の方々にも、**学校をよく理解してもらえよう機会**になっているものと考えています。

必要に応じて講座の開催を市の広報紙に掲載し広範囲にPRしています。



● ボランティア養成講座の実施状況

年 度	実施校	講座数	延回数	延参加者数
14年度	4校	15講座	72回	1,019人
15年度	4校	14講座	50回	803人
16年度	4校	16講座	34回	567人
17年度	7校	16講座	21回	404人
18年度	11校	16講座	18回	342人
19年度	15校	29講座	29回	577人
20年度	21校	54講座	56回	1,372人
21年度	21校	59講座	59回	1,255人
22年度	22校	78講座	78回	1,745人



●22年度ボランティア養成講座の実施状況(抜粋)

学校支援についてとその取組み	学習支援と学校支援を行うボランティア活動	子どものキラリと自分のキラリを見つけよう!	安全セミナー
ボランティア入門講座	花壇の植え替え ボランティア養成講座	音読でスキルUP	子どもとのハートフルコミュニケーション
学校支援ボランティア養成講座(園芸)	普通救命講習	心にひびく食生活	環境整備ボランティア養成講座
うさぎママのパトロール教室	Excelベーシックコース(パソコン講座)	ボランティアの楽しみ方	小平の昔話し
芝生に親しもう	特別支援に関する講習会～中級編～	子どもが犯罪にあわないために	「学校支援ボランティア」の理論と実践
図書ボランティアスキルアップ講座	社会のしくみを知る～学習支援スキルアップ講座～	安全見守り講習会	ビーズで手作りアクセ教室
授業支援における課題にむけて	エコバッグ作成講座	科学実験ボランティア養成講座	パネルシアターってなに?
けん玉修理講座	応急手当を覚えよう	新美南吉の生涯とその作品	小平糧うどんを学ぶ
図書ボランティア読み聞かせ講座	手芸作品の制作	本は子どもの世界をげる	プレ1年生
ウイグル文化講演とウイグル料理講習	紙芝居の演じ方講座	朗読会	子供の才能の伸ばし方



●ボランティアの活動状況

学校支援ボランティアには、大別して、大学生を中心とした学生ボランティアと、保護者や地域住民を中心とした社会人ボランティアがあります。

	平成21年度		平成22年度		増減	
	延べ人数	延べ時間	延べ人数	延べ時間	延べ人数	延べ時間
学生ボラ	2,259	7,398	2,058	7,417	▲201	19
社会人ボラ	35,191	57,527	38,040	51,476	2,849	▲6,051
合計	37,450	64,925	40,098	58,892	2,648	▲6,033

平成17年度以降は、毎年約40,000人の方が、約60,000時間ボランティアとして活動されています。



●小平地域教育サポートネット事業の効果

① 本物の体験、学習の幅が広がる、様々な人との出会いが子供の夢を育てる (子どもにとって)

本物の体験によって学習の幅が広がり、深く学ぶきっかけづくりとなるとともに、多くの地域の人たちとの出会いが子供の夢を育てたり、あいさつを交わすようになるなど社会性を育むことにもつながります。

② 子供の課題に関してより専門的な授業が展開できる、専門性に触れるよい機会 (教員にとって)

授業の周辺業務を地域の人たちの支援を受けながら、子供の課題に対してより専門的な授業が展開できます。教師自身も専門性に触れるよい機会となっています。

③ 子供から元気をもらえる、自分の生きがい、自分の将来に役立つ (ボランティアにとって)

社会人ボランティア（特に高齢者）からは子供から元気がもらえる。自分の持っているものを活かすことができ、生きがいとなっている、という声があります。

また、教員を目指している学生ボランティアからは、現場で子供たち、先輩としての教員、保護者や地域の人たちと日々触れ合う機会があるというのは、自分の将来にとっても非常に大切なフィールドワークとなっているという声を聞きます。



●小平地域教育サポートネット事業の課題

- ◆事業内容等が教員・市民に十分浸透していない
- ◆コーディネーターの後継者の養成
- ◆教科学習支援や特別支援教育のサポートの在り方
- ◆サポート・ネット事業としての新しい取り組み
(キャリア教育などへの支援等)



「地域は大きな教室」

小平市立小平第二中学校

学校支援コーディネーター 布 昭子

関わったきっかけ

- ・小平市の市報と学区区域の全戸配布の広報にて、地域教育サポートネット事業の取り組みの事を知り、これまでの経験を生かして、これからの未来を担う子どもたちに貢献できるのではと考え、申し込みました。
- ・そこで、地域の15人の仲間と出会い、英語のボランティアとして、現場で関わるなかで発生した課題解決に、対話の時間を多くかけました。
- ・その年に校長先生からお話を頂きコーディネーターになり、今年で10年です。

継続するための課題

コーディネート機能
資質

人財

情報の引継ぎ

信頼関係

目的

居場所

ビジョン

予算

時間

守秘義務

課題 「人財募集と養成はどうしたらよいか」

- 学校のニーズをもとに
ボランティア入門講座
ボランティア養成講座
学校単位で開催
- そのために必要な資料を作成 →
広報する
PTA・教職員・自治会・従来の関係団体
様々な機会を活用する

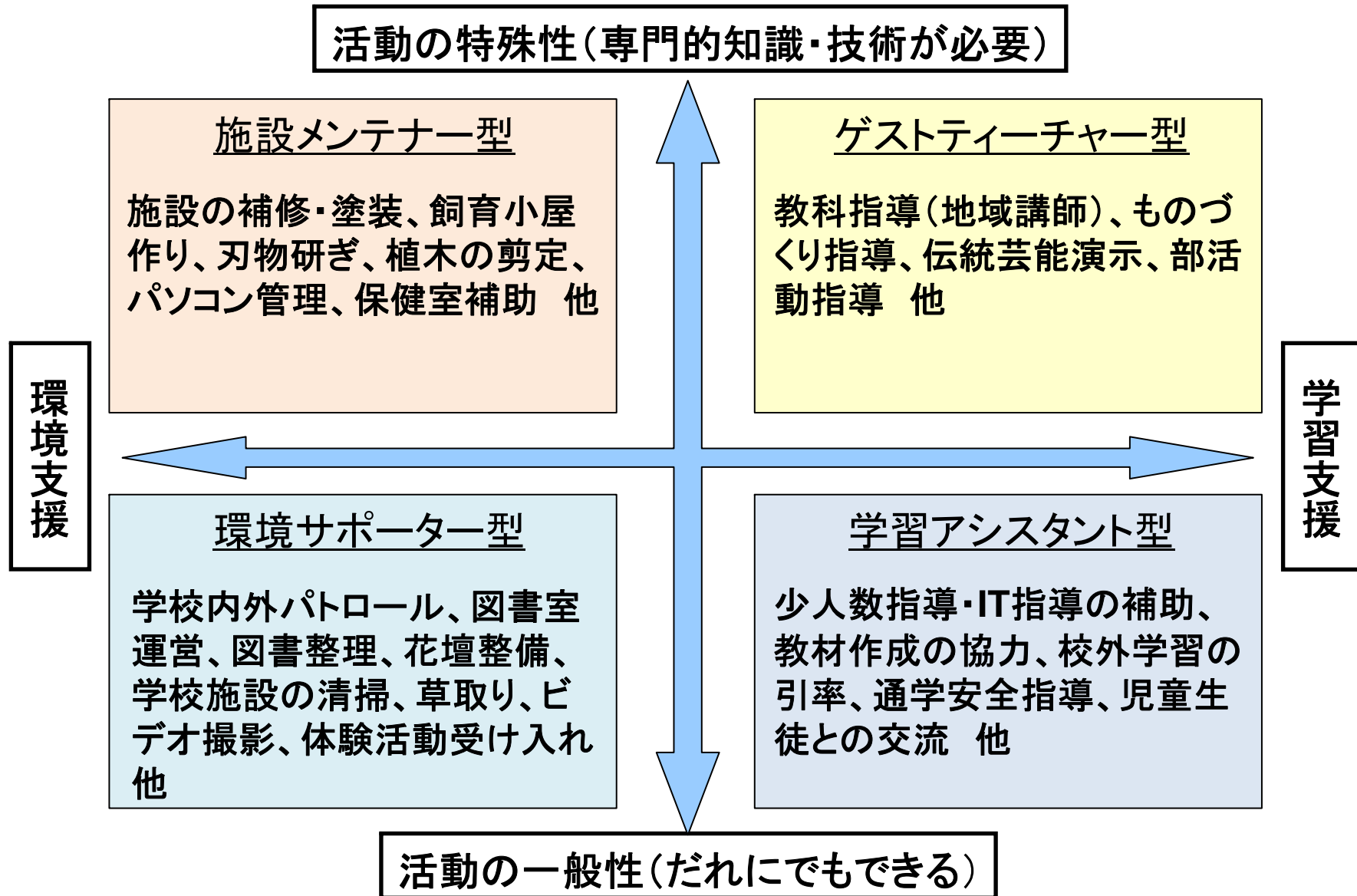
成 果

- ・ 目的に合った人が集まるので、関わりが早い
- ・ 人が集まらなくても、支援の目的が浸透するきっかけとなり、一緒の方向性を向いて活動できる
- ・ 自身の興味関心を広げ深める機会になる
- ・ 新しい人との出会いが生まれる

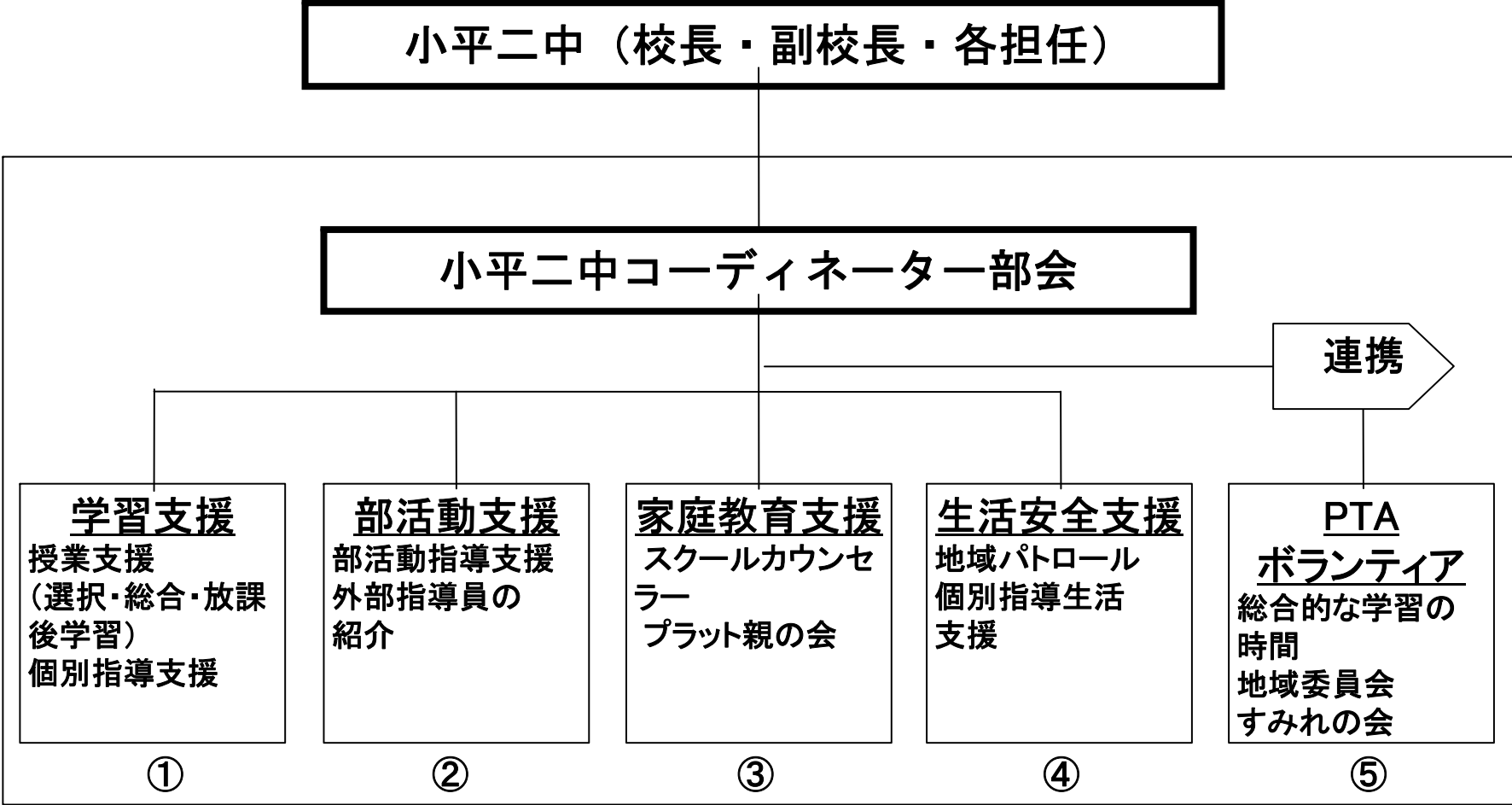
課 題

集まった人財(情報)をどのように、形にしていけばいいのか？

学校支援ボランティアの分類



小平二中 学校支援ボランティア体制



成 果

- ・学校の特徴をだすことができる。
- ・ねらいに応じた募集ができる。
- ・全体が見えて、相互の理解が進む。

課 題

お互いの打ち合わせが
なかなかできない

居場所

PTA室

ふれあいルーム

職員室

コーディネーターの机

研修

ちょこっと研修(教員向け)

入門・スキルアップ講座

(ボランティア向け)

成 果

顔が見える関係が構築

大事な話が落ち着いてできる

守秘義務

情報のやりとりの場が確定

打ち合わせの場所がすぐに確保できる

課 題

先生だって 不安がいっぱい！

信頼のある人間関係作り

コーディネーターの存在と
コーディネート機能の強化

学校教育にふさわしい事業計画をたて、
効果的に多様な人財の力をとりいれる
事ができる

結 果

子どもたちの主体的な
学びにつなげる楽しさ
を知る

外部の教育力の活用 PTAと地域の連携

「総合的な学習の時間」支援・・・H16スタート

1年...福祉体験学習・職業人の話を聞く



2年...職場体験



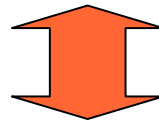
3年...専門家の情熱と技にふれる

具体的な事例① NPOとの連携

現 状

- ・「どんな仕事に就いてみたい？そのためにどんなことをすればいい？」という従来の進路指導だと、どこかで夢を断たれることが多い。
- ・教員がわかっている範囲の中での授業しかできない。

コーディネーターが



うまくつないで

NPOや企業もつ教育プログラムを効果的に導入したい。

NPO法人キーパーソン21の独自のキャリア教育プログラムをコーディネーターと教員自身が研修を受け、アシスタントとして授業に入り展開しました。ただの外部のプログラムを全部導入するだけでなく、先生方にキャリア教育を工夫していただくきっかけにしたいと、導入しました。



「好きなもののビンゴ」

自分の好きなものをシートに書き、ビンゴゲームを楽しみながら自分や友達の好きなものや夢を知る

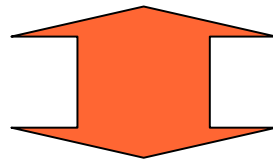
「お仕事マップ」

自分の好きなことからイメージマップの手法で職業について考える

2つのゲームは「将来何になりたい？」とたずねるのではなく、ゲームを楽しみながら真の自分の得意なことに気づき、自立を考えることができる



効果的な授業が



展開できた

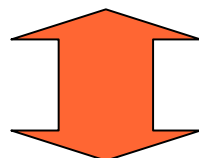
キーパーソン21の発想はまったく逆でした
これからは「好きなことは何？それを生かすために、どうしていきたいか」という考え方に立ってキャリア教育を進めるべきだと感じました。

具体的な事例② 企業との連携

現 状

職場体験を実施するにあたって、マナーを教えることは必須。
どの学校でも当然やっていて、教員が教えるものだと思っていた。
しかし、この学校では外部講師やコーディネーターに依頼していた。

日ごろの教職員との対話



学校のニーズをつかむ

課 題

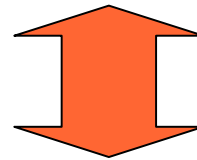
技術が優先される内容になりがち。
子どもたちが何のためにマナーが必要なのか
をもう一步理解していない。



要 望

- ・きめ細かい支援をお願いしたい
- ・人材不足 ←生徒数が多いため
- ・講師の力量不足←大人に対するノウハウが必ずしも子供に通じるとは限らない
- ・もっと子供たちが必要だと感じられるマナープログラムにしたい

相互の情報を収集する



目的に応じてマッチングする

対 策

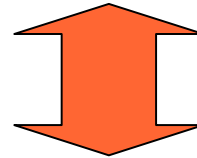
コーディネーターが自己的人脈からいくつかの関連企業に相談をしたところ、趣旨を理解してくれたのは地元企業であった。その企業では次世代や人材育成に関心があったことから、ただの1イベントで終わらず、継続的な支援を行うために会議で承認してもらい、社内で人材募集を行った。

そこで、すでにある教材を子ども用の教材に工夫して社内研修を実施した。なぜマナーは必要なのか、なぜ挨拶は大切なのか、今の中学生がまったく理解していないという前提で検討してくれた。

実 施

9月17日 3・4限目 保育・福祉動物・専門学校・金融官公庁
10月 8日 3・4限目 工場サービス・飲食・販売・金融官公庁

継続のために



内容のレベルアップのために

振り返り

先生の声

- ・プロの技を見せてもらったと実感した

子供たちの声

- ・マナーの大切な意味が少し分かった

かかわっていた人たちの声

- ・大切なことを少しでも伝えることができた
- ・自分の仕事の振り返りになった



○これからの課題は、

相互の資質・能力の向上です

続けてきて良かったこと

子どもたちの輝く笑顔

先生方の安堵の笑顔

ボランティアの温かい笑顔

地域の安心の笑顔

大事にしていること

一人を大切に

- 信頼と繋がり
- 健康
- 笑顔
- 少しの勇気
- 確かな一歩